

## 第1回おおさかスマートエネルギー協議会議事概要

開催日時：平成25年6月13日（木）13：30～15：30

場 所：大阪府咲洲庁舎 23階 中会議室

### 1. 協議会の設置について

- ・事務局より、おおさかスマートエネルギー協議会の規約について説明。

#### 【主な質疑等】

- ・規約の目的で「エネルギー使用の抑制」と記載があるが、経済が発展して産業が発展すれば、エネルギーの使用量自体は増えると思う。効率的な利用を推進するという表現にしてはどうか。  
⇒ 全体の方向性としては、エネルギー使用量を減らしていくという観点があり、「温暖化の防止等に関する条例」で同様の記載をしているため、文言を変えるのは難しい。効率的にエネルギーを使いながら大阪の産業を発展させるという方針。
- ・抑制については、「増えるかもしれないけれども、抑制した」という考え方をすれば、増えることを禁じているわけではないという解釈もできる。

### 2. 府域のエネルギー消費の現状と府の施策

- ・事務局より、府域のエネルギー消費の現状と府の施策について説明

### 3. 今夏の電力需給、電力料金値上げ

- ・関西電力より、今夏の電力需給見通しと、電力料金の値上げについて説明

#### 【主な質疑等】

- ・揚水発電とはどんな発電か。  
⇒ 上下にダムを作って、夜間の電気を使って下の水をポンプで上にくみ上げ、電力が不足するときに水を下に落として発電する仕組み。
- ・電力需給が厳しいように感じるが、昨年のような計画停電の考え方はないのか。  
⇒ この夏は、関西電力単独でも3%の予備率が確保できている。中西日本全体で見ると6%の予備率がるので、仮に需給がひっ迫した場合でも他電力からの融通で対応できると考えている。
- ・9月から原子力発電の供給力が半分になっているのはどういうことか。  
⇒ 大飯3・4号機が13ヶ月運転すると定期点検に入り、9月5日に1基止まるため、半分になっている。もう1基も9月15日に定期点検に入る予定。

### 4. 省エネ、創エネ等に関する各団体の取組み

- ・各団体からそれぞれの省エネ、創エネ等に関する取組みについて紹介。

(大阪市)

- ・大阪府と共同で「おおさかスマートエネルギーセンター」を運営。
- ・咲洲でスマートコミュニティの実証事業を実施

- ・夢洲で 10 万 kW のメガソーラー事業を実施。秋口から発電が開始される予定。

(堺市)

- ・市域での省エネ促進のため、省エネに関する補助事業や晴美台エコモデルタウン事業を実施。市施設での省エネとして公共施設の LED 化等を実施
- ・市域での再エネ普及のため、まちなかソーラー発電所促進事業（補助金）や、市施設への再エネの導入として特に小学校への太陽光の導入に取り組んでいる。
- ・関西電力と共同で実施しているメガソーラー（堺太陽光発電所）では電力系統の影響等の技術的な課題について検証されている。

(貝塚市)

- ・ESCO事業により光熱費が削減されている。導入より現在の方が削減率がよくなっている。
- ・施設改修に併せて、市施設での太陽光発電の設置を順次進めている。
- ・省エネについては、緑のカーテン、環境家計簿、見える化機器の貸出の取組みを行っている。
- ・住宅用太陽光とエネファームの補助を実施。

(河南町)

- ・平成20年度に、エコアクション21を取得し省エネ等に取り組んでいる。
- ・個人住宅用太陽光発電への補助、地域が設置する防犯灯のLED化への補助を実施。
- ・第2次河南町地球温暖化対策実行計画として24年度から26年度までの3年間で3%の削減を目標としている。
- ・「かなん環境マイスター」というボランティア団体を作って、温暖化防止対策の活動をしていただいている。

(近畿経済産業局)

- ・今夏は数値目標を掲げずに、可能な範囲での節電を各所をお願いしている。
- ・省エネ、新エネ関係の補助金は5月末頃から1ヶ月程度を目途に公募を始めている。補助金の情報をひとまとめにしてホームページで発信している。
- ・昨年、スマートコミュニティの勉強会を開いており、今後もいろいろな勉強会を実施する予定。
- ・FIT制度が始まって、昨年度は多数の認定申請が出てきた。今年度は少なくなっているものの、今後も増えていく見込み。関西はダブル発電の申請が多いという特徴がある。

(大阪府生活協同組合連合会)

- ・大阪いずみ市民生活協同組合で、物流センターの屋上に2.3MWの太陽光発電を導入した。
- ・市民共同発電所をつくるためのNPOづくりを進めている組合の応援を行っている。

(なにわの消費者団体連絡会)

- ・省エネ、CO2削減については以前から環境家計簿や緑のカーテンなどに取り組んでいる。環境家計簿は関心が薄れている。
- ・震災後は節電の呼びかけや、去年暮れ以降は電気料金の勉強会を行ってきた。今後も電気

料金が上がるだろうという不安感があるので節電意欲は高まっている。

- ・スマートハウスのような新しい技術は消費者にとっては難しく、導入コストが高いため関心を払っていないが、最近は勧誘の電話なども多いため注意の呼びかけをしている。

(関西経済連合会)

- ・政府や自治体へのエネルギー政策に対する提言を行っている。
- ・省エネ・環境関係の取組みとして、環境・エネルギー技術の事例集の作成、中堅・中小企業への省エネに関するセミナー、クールビズの推進などを行っている。今後、エネルギーの教育にも力を入れていきたい。

(大阪商工会議所)

- ・中堅・中小企業を対象に夏の節電に向けてのセミナーを開催。
- ・経営相談の中で、省エネの相談が多い。
- ・創エネについて中堅・中小企業の製品技術、ノウハウを活かしてもらおう開発型のマッチング事業を実施。
- ・国に対してのいろいろな要望活動を実施。

(大阪府中小企業団体中央会)

- ・エコアクション21の地域事務局の認定を取って、中小企業に進めている。
- ・節電セミナーを実施。コストダウンにつながるということで関心が高まっている。

(関西電力)

- ・電気の使用量の比較等ができる「はぴeみる電」というツールを用意。
- ・1時間ごとに電気使用量を把握できるスマートメーターへの取替えを進めている。

(大阪ガス)

- ・コージェネレーションシステムの促進を行っている。近年は燃料電池型(エネファーム)を発売している。
- ・その他、ボイラーや工業炉の高効率化、エネルギー監視システム(もっとSAVE)などの取組みを行っている。

## 5. 今後の進め方、テーマについて

- ・事務局より、今後の全体会議及び部門別会議(事業者、家庭、市町村)の進め方やテーマについて説明。

【主な質疑等】

- ・部門別会議では各社のノウハウなどが出てくると思われるが、公開の会議で実施する予定か。  
⇒ 部門別会議は公開ではできないような深い議論をしたいということもあるので、全体会議は公開で、部門別会議は非公開で実施してはどうか。(反対意見なし)